

『自分を信じて』

東京都

小台宮城剣友会

小学6年 齊藤南美

私は剣道を始めて、今年で七年目になります。今年が小学生最後の年。色々あったけれどなんだかんだ今も続けています。これからお話しする内容は、五年生から今までの出来事についてお話しします。私は五年生の時、試合で引き分けか負けばかりでした。試合の時、「自分から行って取られたらどうしよう」「よければ負けない」「負けなければいいんだ」と思っていました。でもある先生は、「自分から前に行け」と言っていました。でも、私にはそのような自信などなかった。「そんな勝手なことをして負けたらどうするんだ」と心から声が響いて、でも、「もしかしたら当たるかもしれない！」と思う時があったけれども、やっぱり負けるのが怖くてよけることしかできない自分に腹が立っていました。この時の気持ちを一言で表すと「剣道ってつまらない」そう思っていました。そうして、六年生に上がっても相変わらずそんな感じだったので、頑張っても意味がないと思うようになり、四～五年生の時から行っていた出稽古にも行かなくなりました。たまに同じ剣友会の人に誘われた時だけ行く感じでした。

そして、夏の小学生最後の武道館の練習が始まる数か月前にとある大会で自分だけ一回戦負けをしてしまいました。思いつめていた感情がすべて途切れたかのように、もうこのまま続けてもみんなに迷惑を掛けてしまうのではないか、自分には向いていない、というか「もう疲れた」「やめて他の事を探したい」と思い、ついに監督の家に「やめる」と言いに行っていました。車で向かう途中、監督の家に着くまでの間、心臓が飛び出すかと思うくらいすぐドキドキしていました。そのとき私は頂点か底辺だとしたら、底辺中の底辺だったのです。家について中から先生が出てきて、その時の気持ちを正直に全て話しました。すると先生は「俺も昔、そういう時あったよ」と少しずつ学生時代の話をしてくれました。今考えたら、申し訳ありませんがその時の私は頭が混乱していて先生の話があまり耳に良く入ってきませんでした。あまり覚えていませんが、確かに覚えている事は「俺は今うんとは言えない」「今やめるのは自分のためにならない」「今週休んで良いからよく考えろ」と言っていたので休んでいる間、家族とも話をして、今は自分がどうしたいかではなく、武道館のメンバーの事や自分の事を考えてくれる先生への思いを考え、「やっぱり続けよう！」と決めました。稽古に行く前に少ししか休んでいないのに、「すごい久しぶりだなー」と道着を着た瞬間、懐かしくなりました。体育館に行く前にもう一度先生の家へ行って何事もなかった様に「やっぱり続けます！」と一言いいに行きました。今思うとあの時、先生が止めてくれなかったら今の自分はいないと思います。なので、今続けるのはその先生のおかげです。そして武道館の練習が始まり、あっという間に武道館の日になり

ました。あの日、止めてくれた先生が監督で六人での試合。結果は三回戦負けでしたが六人で力を合わせて練習してきた事、このメンバーで出られた事が、本当にすごく良い思い出になりました。この日のことはきっと大人になっても忘れないと思います。今私の剣友会には小さい子供達が何人かいます。私もかつてして貰った事と同じ様に準備運動の時にサポートしています。「こうしてまた、一人二人と、皆順番に誰かに支えて貰いながら少しずつ成長していくんだなー」と思いました。あの日を境に私は少しずつ考え方を変えることにしました。今までは自分に自信が持てなくて「怒られたらどうしよう」とか先生の顔色を気にしてしまい、いつの間にか逃げていてばかりでした。私

はやっぱり自分らしく自分の剣道をしたい。時にはそれがチームの皆に迷惑を掛けてしまう事もあるかもしれないけれど…。もし今、あの日の私と同じように悩んでいる子が居たら、こう伝えたいです。

「周りの目を気にせず、自分らしくやった方が良いよ！」「自分らしく自分の剣道を」これが私が七年間で学んだ事です。「自分を信じてこれからも。」